

講義名	対)19-日本語D(話す)/15-日本語D【留学生科目】			授業形態	
担当教員	辻 周吾		開講期・曜日・時限	前期 金曜日 2時限	
	単位数	2	履修開始年次	2年生	ナンバリング

主題と概要

毎回、「異文化コミュニケーション」に関する記事を紹介し、それを読解します。内容の解説はもとより、本文中における語彙や文法も指導します。記事については、異文化コミュニケーションにかかわる書籍で、代表的なものから最新のものを扱います。

そして、ワークシートの課題をもとに、そのテーマについてディスカッションを行います。意見を伝えたり議論したりする日本語の「話す力」を身につけます。

到達目標

日本語の「話す力」を身につけ、意見を言ったり議論したりすることができるようになる。
異文化コミュニケーションへの理解を深められる。
異なる価値をもつ学生の意見を聞くことにより、新しい視点と豊かな発想など、新しい価値観を身につけられるようになる。

提出課題

ワークシートの課題や中間/期末レポートなど、授業中に指示します。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

レポートの場合は、学生からの要望により、講評による説明に応じます。

評価の基準

授業への参加度/授業でのワークシート課題の提出(60%)、中間レポート(20%)、期末レポート(20%)

履修にあたっての注意・助言他

- ・毎回、出欠をとります。
- ・15分以上の遅刻は、欠席とみなします。
- ・授業には、辞書を持って来てください。

教科書

.使用しない。

参考図書

.日本語教師のための異文化理解とコミュニケーションスキル.	八代京子・世良 尚子	三修社	2420	9784384055726
.ビジネスコミュニケーションのためのケース学習:職場のダイバーシティで学び合う【教材編】	近藤彰・金孝柳・ムグダ ヌルディー・福永由佳・池田珍子	ココ出版	1760	9784904595374
.経営戦略としての異文化適応力 ホフステードの6次元モデル実践的活用法.	宮森千恵子・宮林隆吉	日本能率協会マネジメントセンター	1760	9784820726982

その他

授業中にプリントや資料を配布します。

授業計画

毎回、「異文化コミュニケーション」に関する記事を紹介し、以下のような授業概要になります。新しい書籍など、有意義な記事が見つければ、そちらのテーマを取り上げることもあります。

- 第1回: 『日本語教師のための異文化理解とコミュニケーションスキル』(八代京子他)の記事(1)
- 第2回: 『日本語教師のための異文化理解とコミュニケーションスキル』(八代京子他)の記事(2)
- 第3回: 『日本語教師のための異文化理解とコミュニケーションスキル』(八代京子他)の記事(3)
- 第4回: 『留学生が見たカルチャーショック日本』(メヘラン サベト他)の記事
- 第5回: 『ビジネスコミュニケーションのためのケース学習:職場のダイバーシティで学び合う【教材編】』(近藤彰他)の記事
- 第6回: 『ビジネスコミュニケーションのためのケース学習:職場のダイバーシティで学び合う【教材編2】』(近藤彰他)の記事
- 第7回: 第1回-第6回までのフィードバック/中間レポート
- 第8回: 『経営戦略としての異文化適応力 ホフステードの6次元モデル実践的活用法』(宮森千恵子・宮林隆吉)の記事(1)
- 第9回: 『経営戦略としての異文化適応力 ホフステードの6次元モデル実践的活用法』(宮森千恵子・宮林隆吉)の記事(2)
- 第10回: 『異文化理解力』(エリン・メイヤー)の記事
- 第11回: 『中国語在バック』(小島正司)の記事
- 第12回: 『グローバル社会における異文化間コミュニケーション』(西田ひろ子編)の記事
- 第13回: 『中国・ベトナム進出日系企業における異文化間コミュニケーション考察』(西田ひろ子編)の記事
- 第14回: 『日本企業における人的資源管理に関する研究』(辻周吾)の記事
- 第15回: 第8回-第14回までのフィードバック/期末レポート

授業形態(アクティブ・ラーニング)

<input type="radio"/> ア: PBL(課題解決型学習)	<input type="radio"/> イ: 反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
<input type="radio"/> ウ: ディスカッション、ディベート	エ: グループワーク
<input type="radio"/> オ: プレゼンテーション	カ: 実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/> キ: その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・事前に配布する資料について大意読みと精読を行い、分からない語彙や文法を調べ、各授業2時間程度
- ・授業中に覚えた語彙や文法を確認し習得する/ワークシートの課題で添削されたものがあれば、その内容を確認する...各授業2時間程度

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

留学生を対象とした科目群で、日本語の話す技能について実用的かつ基礎的な語学力を修得するとともに、豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持った人材を育成する科目です。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

異文化コミュニケーションに関するケーススタディにおいて、教員と学生間で議論する機会を設けます。

実務経験の有無及び活用

備考